

# 「観音寺日譜」(5)

(京都府乙訓郡大山崎町観音寺所蔵)

——宝暦九年日譜②

石 井 日出男

本稿は、前稿を承け、宝暦九年（二七五九）「観音寺日譜」の後半に当たる七月朔日から十二月末日までを解説して紹介する釈文である。この宝暦九年は、既に紹介済みの宝暦二年から六年を閲するが、この間の「日譜」は現在所在が不明である。

さて、「日譜」から判明するこの年の山内居住者の構成を種別に検討すると、正月現在で、院家（第五世泰光）以外の僧侶が七名、随身の俗人が六名、下男が四名であり、七年前とほぼ同規模であった。

僧侶の内、「役者」を勤めていた①興松寺（養傳房）は四月二十五日に引退願が認められ（「養傳房興松寺退休之儀願之通此夜被 仰付、拝領物等委曲記録<sup>録</sup>ニ 留有、尤御願之趣以書付被仰上、則納置」）、五月九日から鳥飼に所在する末寺の興松寺で隠居生活に入ったことである。なお、観音寺の歴代の「役者」の多くは末寺の興松寺の住持

が勤めており（この場合、通常は観音寺の方に居住して観音寺の寺務を執り、興松寺には留守居を置く）、したがって、興松寺の住持は自ずと観音寺の諸事情・寺務に精通した最長老的立場の僧侶となる。現存する日譜で最も古い延享元年（一七四四）日譜から宝暦二年日譜段階までの在山の僧侶として「養全房」が存在しており、この宝暦九年日譜の養傳房は養全房と同一人物と考えられる。そうであれば、ここに観音寺の最古参の僧侶が引退したことになる。養全房と共に宝暦二年日譜にみえる②定観房は、養傳房の引退後は最古参となり観音寺の役者を勤めることになると思われる。

観音寺山内の居住僧であるが、従来はみられなかった性格の僧侶として③圓空房が存在する。彼は客僧的な立場にあり、自身の従者として森善三（善藏）を雇っていた。また、圓空房は独自に信者（帰依者）を有している（例えば正月七日の条に、丹後由良村の新屋万六等の来山があり、「右ハ圓空房帰依之衆中也」とある）。さらに、六月には権律師の官位が勅許され、十二月には御室御所の院号の一つである「勝功德院」の名跡を預り、すなわち、観音寺の住持と同様に御室御所の院家を兼帯する立場となっている（十二月二日、同三日の記事参照）。この時期、観音寺には御室御所の院家が二名存在したことになる。ただし、観音寺の住持（泰空）は、前年（宝暦八年）三月に権僧正に任官しており、両者の官位には相当の開きがある。

以上の三名以外の僧侶は、④観典房、⑤明巖房、⑥智道房（知道房）、⑦賢隆房（見龍房）の三名で、智道房は三月二十九日の記事から「音潮房」へと改名したことが判明する（「昨夜、智道房変名被仰付」）。なお、以下にみる随人の俗人の内、平田桂州が四月に出家し「東岳房慧空」の法名を授与され僧侶として観音寺に勤めることに立場を変えている（二月十六日、四月朔日・同二日・同十四日の条を参照）。また、九月以降、後に役者を勤めるこ

とになる与楽院が観音寺の寺務を勤める者として現われるが、関係のある記事が少数のため、山内居住者であるのか、山外からの寺務の助力者であるのかは判然としない。したがって、この時点における与楽院の立場については留保しておく。

寺務に従事する俗人は、①井上主税、②後藤弾治、③平田桂州、④三宅平馬、⑤巽新吾、⑥森善三(善藏)の六名である。以上の内、井上・後藤の両名は宝暦二年日譜にみえ、宝暦二年ないしそれ以前からの在山者となる。なお、宝暦二年日譜段階まで長く「役人」を勤めた人物に三宅平兵衛が存在するので、三宅平馬はその平兵衛の関係者(おそらく子息)であろう。また、井上主税はこの時期の「役人」を勤める立場(俗人勤務者の筆頭)にあったが、二月下旬、御室御所の寺侍へ転職、杉本内匠と改名している(二月十九日、同二十一日の条等を参照)。観音寺の住持は御室御所の院家を兼ねる(法浄院と称す)ことから、以後、杉本内匠は観音寺にとって御室御所関係における有力な情報源・協力者となる。平田桂州と森善三については前述の通りであるが、森は六月二十六日に退山している(「圓空師の暇長申請退山」)。以上六名の他に、三月下旬から、観音寺に勤務経験があり現在は京町奉行所に勤める松田新八郎の舎兄・庄藏(将曹)が、新八郎の仲介で観音寺の禄を食むことになった(三月二十六日の条を参照)。ともあれ、観音寺の寺務従事者(寺侍)は、養子等の機会があればさらにキャリア・アップが可能であったことが判明する。

下男は、①貞助(貞介、定助、定介)、②清助(清介)、③七助(七介)、④善七が当初のメンバーで、善七は二月二十一日に「御暇頂戴」して在所へ帰っている。なお、三月から忠助(忠介)、八月から関助(関介、石介)が山内居住の下男として加わったものと思われる。以上の常雇の下男の内、「関助」のみが宝暦二年日譜にみえる。

ただし、関助の名が年度途中から現われること、また宝暦二年からの経過年数を考慮すると同名異人の可能性がある。

本稿は、神奈川大学日本常民文化研究所の共同研究及び二〇〇三年度日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金による研究（研究代表者 中島三千男）の成果の一部である。

なお、神奈川大学日本常民文化研究所の調査を快諾され、伝世の貴重な所蔵文書の公開を決断されて提供して下さるとともに種々のご教示に与った観音寺住持の井上亮淳氏（元種智院大学教授）に厚く御礼申し上げる。

## 註

- (1) 江戸時代に名跡がある仁和寺の院室は「仁和寺諸院家記」（『群書類従』巻第五九 補任部十六、第四輯）によると七八院、「諸門跡譜」（『群書類従』巻第六一 系譜部二、第五輯）によると六六院であるが、「勝功德院」の院名は、前者の四六番目、後者の三三番目にみえる。ちなみに、観音寺の歴代の住持が永兼帯する院号の「法浄院」は、前者の六四番目、後者の五六番目に登載されている。

「宝曆九年日譜」②

七月朔日晴天

一 御室 正親町

仙臺屋敷暑中見舞御使  
御留守居服部兵太郎殿へ素麴三十把年始御挨拶兼之

素麴一箱暑中献上

金百匹圓空師任官御礼<sup>ニ</sup>

御前<sup>ル</sup>献上 真乘院様へ素麴一文匣

土橋太輔殿へ素麴三十把

是ハ圓空師の御礼なり

一 參詣

温鈍之粉一袋指上候  
(袋)

一 就所勞、八幡中村采女方へ參ル

二 日晴天

一 帰山

明 嚴房  
供一人

伏見京橋 左兵衛

定 觀房

明 嚴房

一 登山

神照院

一 七ツ時△大雨大雷、八幡町之内雷火

三日 晴

一 八幡へ参詣

観典  
見龍

四日 晴

一 上京

明嚴  
忠介

智積院寛海法印此度圓福寺へ入院ニ付、東行為御送別、中啓打出シ本卷紙三百枚被進候御使同人相勤 純庭へ銀貳両被下之

一 登山

西田源藏

大峰高野等御札等色々献上

一 御用ニ付、伏見へ参（校註…人名記入なし）

五日 晴

一 禁裏献上

東京  
明嚴

素麴一函 長橋殿同断

相勤 ☐ 也

右京大夫へ多葉粉入

七介差登

六日 晴

一登山

安満村与八郎

暑中為御見舞、真瓜二十献上

一津嶋屋越後へ暑中為御窺、水玉二筒献上

一疋田大學へ暑中為御挨拶、水玉被遣之候事

七日 晴

一御礼登山

豊後殿

一明巖房所勞ニ付登山

聞法 ☐ 也

八日 晴

一葛葉久修園院へ如例御布施銀壹両齋米三舛菜料三匁被遣之候事

一聞法寺へ藥礼銀五両、八幡町中村采女へ三匁五卜、大喜多道仙へ銀一両各被遣候事

一中西豊後殿へ素麴二十把被遣也

一京使

清助

仙臺屋敷七夕之御祝書被指出候

右帰便ニ 昏屋庄左衛門方△真瓜一籠指上候、丸屋喜八△さ、き十把指上候

一真上村光徳寺△使来、定観彈治方江内用書到来

一神照院法相義講談結席

九日 晴

一鳥養西之村新吾母△使来

暑中為御窺、真瓜十献

一伏見茨木屋清兵衛方△御影堂唐戸鉄金□相揃手代持来

十日半晴

一京盆前御拂ニ付上京

彈治八伏見江御拂寄候

一為御鏡登山

西瓜△二 淺瓜△五 献上

右便ニ 庄屋源右衛門△西瓜二ツ献上

定観房  
彈治  
下男一人  
鳥養村  
遍照院



一 御影堂唐戸皆成就、細工人<sup>大工</sup> 平治  
一 参詣

ふしゝ津国屋左兵衛

十一日晴

一 暑中為御尋、安養院和尚<sup>△</sup>御使僧、弟<sup>(兄)</sup>□學英房登山 御前御對面御直答

十二日半晴

一 伏見丸や五兵衛方<sup>△</sup>暑中為御伺使差越

西瓜 一裹

小芋 献呈

一 神照院律師へ明日 開山忌斎被進べく旨御使僧

明 嚴

一 帰山

定 観 房

後藤弾治

一 登山

古市 徳王寺

十三日晴

一 等引金剛御法事如例

一神照院御登山、御着座

即知房侍従

一退山

古市邨 徳王寺

鳥飼 遍照院

一西田源藏方々暑中御伺ため

真瓜一頭献呈、任序丸や五兵衛方へ

(破れ)  
暑中御見廻書状頼遣ス

十四日晴

一即日帰山京都四條へ御使

貞介

一神照院へ中元之御祝儀被仰入

金二百匹 (菓子二俵入) 御贈進

定観房

十五日晴

一當日御祝詞のため登山

中西豊後殿

一御祝儀参上

大工 平治

十六日晴

一鎮守参詣

金百匹中二元為御祝儀相収  
榮井や 利右衛門

此日 鎮守講再興

冠村  
小兵衛

山主初、寺内僧俗下部迄奉納、其外參詣衆中相勤者也

十七日晴

一神照院即知房登山、中元御祝儀被仰入候御挨拶也

十八日晴 無事

十九日晴

一神照院へ御使僧、明厳房

一登山

森善三

廿日晴

一就用事、京都桜井恕軒老方へ參

一登山  
萬三儀二付即後退山

音潮房

桜井恕軒老

善三弟新三□

桜井園八

一 神照律師御登山、即知師侍從

廿一日晴

一 登山

疋田大学殿

一 神照院律師即知師登山、寶庫虫拂手傳之ため也

一 仙家閨七月分御祈禱御守札出使

元介

桜井恕軒老方へ圓空師就用事相寄ル

廿二日晴

一 京都矢倉六藏殿母御機嫌伺登山

僕一人

そうめん一箱 茶二帋<sup>(袋)</sup>  
海そうめん 呈上

一 御機嫌伺<sup>即日登山</sup>

松田新八郎殿

一 神照院様御登山

廿三日晴

一 御室佐和山将曹殿方へ内室安産之護付被差贈<sup>(符)</sup>

忠介

一 高濱妙法寺之儀<sup>ニ</sup>付、同邨弥右衛門方へ參

明 嚴房

一 神照院御登山

一 松井中性院<sup>△</sup>暑中御伺使被差上、西瓜<sup>ニ</sup>裏呈上

廿四日晴

一 神照院御登山

廿五日晴

一 暑中御伺登山

草花数莖献呈

松田新藏  
僕一人

廿六日晴

一 神照院就虫拂、御侍從中<sup>ニ</sup>三兩輩、為手傳被遣

御前、神照院へ御出

廿七日晴

一 神照院へ就虫拂 御前御出

御侍弟中両三輩被遣

廿八日晴

一 參詣

一大坂栄井屋利右衛門方ニ知音之由ニ而參詣三人、其内婦人壹人

一 京都油小路錦上ル処伊勢ヤ市右衛門鎮守ヘ參詣 琥珀糖棹 献呈

一 御室杉本内匠殿伊丹金剛院御改除檢使相濟帰掛登山

保命酒一罍上

一 參詣 伏見京橋左兵衛

干温饅献呈

侍一人  
僕一人

廿九日晴

一 鳥飼中小路善兵衛方ニ暑中御伺のため使差越 西瓜 二裏差上候

佐々木六右衛門ニ 麦粉一袋 献呈

善兵衛江 保田葛一箱被下置 六右衛門ヘ 砂糖一匁 被遣

晦日晴

大坂  
森元長左衛門  
連一人

一 御前御室へ御参、夫々京都へ御出駕、早旦御挾箱一荷音潮房付添京都御旅館へ差出

御供 東岳房  
清介

一 高月(マ)寓居膳所之牢人宇都宮圖書殿、カムリ村小兵衛同伴登山、先回小兵衛内願申置候

再勤候様ニ御祈念被成下候様被相願、御留守之趣申聞置退山 多葉粉 十五把呈進

一 御機嫌伺登山

伏見京橋 五兵衛

栗栖野新田反畝帳面持参

一 大坂栄井ヤ利右衛門方々使差越、圓空師方へ也、止宿、翌日退山

閏七月朔晴(口)

一 京師々御駕之者帰山 天(尊)供(差)之醒井餅持帰

二日晴

一 京木ヤ町々圓空師へ人参、帰掛任幸便、御旅館へ白雪扇頼遣ス

三日晴

一 神照院即知師登山 ラカン画開口新語□□□□

一 浪華小西左兵衛、圓空師へ参詣

四日晴 無事

五日晴

一浪華天満内田藤藏殿△圓空師へ使差越ル

六日晴

一神足油や弥兵衛、自身甥當山へ奉公ニ差上たき由願ニ參上

七日晴

一京華△七助帰山、明日御帰山ニ付御迎之者三人差登被下候様申来

八日晴

一京師へ御迎之者三人貞介差登候所、正親町様御用出来ニ付御帰山御延引、依而御小乗物  
挾箱持帰

四人

九日晴



一大坂森元長左衛門方△内山藤三殿親屬之由<sup>二</sup>而播<sup>(僧の力)</sup>□人圓空師へ尋来  
京都大佛金物や善兵衛參詣

十日晴

一備中持寶院登臨<sup>早見</sup>

僕一人

羊羹 三棹進呈也

一御帰山

御供音 東岳潮房

京都御駕の者<sup>二</sup>而二人

清介

十一日半晴

一登山

冠村 小兵衛

高月宇都宮圖書殿内願之儀<sup>二</sup>付登山

一退山 出京

持寶院

一神照院様御賁臨、即知師侍從

僕一人

十二日半晴

一仙臺御屋敷△以平井大八郎を

屋形様△御參府御祝被仰上候、御直答、御書持參 御前御對面、奈良嶋一反被下置

一 御前、神照院へ御出

東岳房  
新吾

白布一反御贈進也

十三日晴

一 無事

十四日降雨

一 仙臺御屋敷へ御使

忠介

延姫様御逝去御悔被仰上候 御直答の御請、御使僧入魂申遣 御直書三通之御請書

三通被遣

十五日雨

一 登山

伏見  
西田源藏

十六日雨

一 參詣 白寶一封ツ、兩人差上

宇都宮図書

十七日晴

一 京都へ帰山

一 登山

冠村  
小兵衛

持寶院  
鳥養  
遍照院  
供一人

十八日晴

一 参詣

栄井や  
利右衛門  
とも一人

十九日晴

一 清酒取  
とん田

仁兵衛

光徳寺へ御多葉粉申遣ス

一 遍照院京へ被参

廿日晴

一 登山 大坂新製まんぢう献呈

鴻池屋  
長左衛門

一 神照院へ御出

東岳  
新五右

一 帰山

三宅平馬

廿一日晴

一 仙臺御屋敷へ 八月分御祈禱御守札差出使、其外用事相兼

貞介

一 登山

大坂  
大和や  
善兵衛

一 神照院へ 御出

東  
新岳  
吾

廿二日半晴

一 仙臺家江戸御留守居飯渕三郎大夫七月中就御用上京、此節滞留<sup>二</sup>而八幡山當山參詣、

同伴京御屋敷役人吾妻次左衛門兩人登山、中飯酒差出、寶寺妙喜菴一見、七時退山、

明嚴案内

一 大門寺へ 先回為御挨拶、定観房罷越

小半紙五束 御贈進

仁兵衛

廿三日雨

一 登山

右八等嚴房出訴之義<sup>二</sup>付内願之義有之參上、羊羹<sup>ニカ</sup>棹献呈

大津  
おさへ  
との

御前御對面、山下二一宿

□退山

鳥飼  
遍照院

廿四日雨

一登山

中西豊後殿

一神照院へ御使僧、観典房

一帰山

定観房

仁兵衛

廿五日半晴

一御前神照茶會<sup>(カ)</sup>へ御出

東岳  
新吾

一伏見尼崎や吉次郎先回奉納之綿結<sup>(カ)</sup>拝受之ため登山

廿六日雨

一(無記入)

廿七日晴

一上京<sub>私用</sub>

定観房

一大津おさへとのゝ先日之御礼として使被差上  
一登山

古市<sup>町</sup> 又兵衛  
徳王寺

廿八日半晴

一京都へ御使

清介

一神照院御登山、即知師侍従

松井<sup>町</sup>

一時節御伺登山

中性院

廿九日晴

一上京

明巖房

一帰山

定観房

一西田源藏使来、牧田惣兵衛借金筋要用也

一京使

貞助

一暇頂郷里へ下ル

平馬

一退山

徳王寺  
中性院

八月朔日

一二條御礼、就御所旁、役者を以被仰入候

使僧明厳

一為御賀登山

栗栖野百性

一同

中西外衛

一為御見舞登山

京都 矢倉六藏殿

一參詣

宇都宮圖書

一方内觸書来<sub>ル</sub> 別記<sub>ニ</sub>有り

一登山

養傳房

二日晴

一退山

矢倉六藏

一登山

中性院

一帰山

明厳房  
定介

三日晴

一新吾母<sub>ノ</sub>お常當地へ帰<sub>ニ</sub>付、乍序御機嫌伺使差上 強飯一重呈献<sub>(ママ)</sub>

一登山

西田源藏

一退山

鳥飼遍照院

一登山 菓子一函献呈

仙臺長条房  
北八丘八衛

四日晴 灌頂受者衆中へ御傳受初

一京都御屋敷へ御使

忠助

御室へ廻ス

一御團拵

五日晴

一出京私用

後藤弾治

六日雨

一退山

長条房

一帰山

後藤弾治

一京都松田新八郎へ使差越、庄藏荷物取寄候也

七日晴



一 神照院△御使僧、即知房

一 御前、神照院へ御出

一 丸ヤ喜十郎、大坂△帰掛寄山御伺 やうかん献上

八日晴

一 京都所々へ御使

清介  
石介

中將様八幡御参向ニ付、正親町様△御借用物之儀被申越、即夜丁子<sup>(調)</sup>村百性共へ領掌之趣返書差遣ス

一 退山

丸ヤ喜十郎

一 於神照院、地藏院流御傳受、此日△御初、毎日午後△御出、持寶院圓空師同断

九日晴

一 湊頂御前行、此日初夜△御開白、護摩御執行

十日晴

一 仙家御留守居服部兵太郎交代、多田勇助八月十五日上京ニ付、今日服部氏へ毎之通御錢別御使僧被遣、風呂敷一御贈進

明 嚴房

丸ヤへ直ニ參支度  
申候也

忠  
□<sub>分</sub>

十一日晴

一(無記入)

十二日晴

一(無記入)

十三日晴

一正親町中将様八幡へ御參向ニ付、御借用物取寄御使三人相渡遣ス

一登山

徳王寺

十四日晴

一退山

徳王寺

一登山

鴻池ヤ  
長左衛門  
連ノ人

□

十五日雨

八幡放生川北△取付石橋東詰全昌寺ニ御宿  
一未明△八幡ニ而正親町中将様御旅館へ御伺、

御使僧 明厳房 僕一人

御酒一樽<sup>三外</sup> 御贈進

一登山 利右衛門へ慈鳳房次第官頼下ス

一出坂利右衛門同道

天満鍋嶋御屋敷留守居

鶴弥右衛門△書状到来、仍而下向

一大坂嶋之内淡路や五郎兵衛御祈念願、宿運増輝之旨趣也 白銀一枚献上

八月十六日△同廿二日迄御開壇也

一中西豊後殿△絳飯一重呈上

九ヤ  
喜十郎  
連二人

翌日未明△  
同 退山

栄井ヤ  
利右衛門  
観典房

十六日晴

一神照律師御登臨

一御觸書到来 井上河内守様 御制札可相渡<sub>二</sub>巨觸来

尤足輕様の者當山へ別觸<sub>二</sub>而參、答書遣入、行事留<sub>二</sub>有

十七日晴

一下坂 鍋嶋屋敷へ御内用<sub>二</sub>付

一出京

明嚴明日 御制札領受之ため 紙や一宿

私用、

觀典房  
持寶院  
明嚴房

十八日晴

一未明<sub>△</sub>下男二人京都紙やへ差出、京都へ明六過着、五前西御役所へ罷出、御制札請取相濟  
即日歸山、明嚴僕二人

一登山

松井  
中性院

十九日晴

一歸山

觀典房

一 神照院様御登臨

一 帰山

持寶院

一 明日御諸司へ制札御領受之為御札御出仕三付、伏見西田源藏方へ御供御頼使

一 登山

西田源藏

廿日晴

一 未明<sup>制札ノ御札御目付</sup>六二条西御奉行、諸司代、東奉行へ

御出札 御小乗物三人

音潮房 源藏

清介 僕<sup>三五</sup>人

一 淀勝寿院へ使僧、趣へ先達而等嚴房出入首尾能相濟候旨申来、等嚴房へ興松寺へ手紙

一 登山

祝園神宮寺

一 參上

中西豊後殿

一 登山

慈雲房  
義天房

廿一日雨 五つ過六晴

一 仙家九月分御守札出御使、□山同断

貞介

一登山

智山見龍房

此便<sup>二</sup>付市居大式<sup>△</sup>法幢院へ御借物返上、為御礼温飴呈上

廿二日晴

一<sup>早山</sup>神照院御登山、御印可御修行

一登山

塔之坊

徳王寺

八百や庄兵衛

一<sup>初夜</sup>御前中法灌頂之御印可御修行

廿三日晴

一義天師知己津輕密元法印師弟大法為拝見登山、一宿、翌日退山

一初夜<sup>△</sup>普賢延命中法御開壇

廿四日晴

一神照院様大法為拝見御登山、一宿、翌日御齋差出御退山

一大坂淡嶋<sup>マツ</sup>や五郎兵衛<sup>△</sup>御守札頂戴使

廿五日晴 朝雨天

一普賢延命中法御結願

一退山

慈雲法印

義天師

徳王寺

神宮寺

塔之房

八百や庄兵衛

廿六日晴

一退山

徳王寺

一登山、一宿、翌日退山

桜井恕斬老  
大次郎

覚  
□<sub>威力</sub>  
房

廿七日晴

一灌頂道場支度、神照院御登山

一登山

瑞山房

一登山 持寶院へ内用ニ付

備中  
南泉坊

廿八日晴

一<sup>就灌頂</sup>神照院様御登山、御止宿

一灌頂御糸縫、於御客殿、神照院御登山、御一宿

一退山

瑞山房

備中  
南泉房

一登山

茶一帋<sup>(袋)</sup>献上伊藤左兵衛  
連者三人

一登山

一四日帰京之由

泰雄房

大雲房

廿九日晴 午後△雨

一灌頂 香藥合等首尾能相濟

一登山 大仏餅呈上 光

智山  
光照院茶二帋<sup>(袋)</sup> 超觀師

超觀房

僕一人



晦日晴

一 京都御使

七介

一 退山

光  
超 観照院房

一 四条紙ヤ△使到来、時計為持越ス

九月朔日晴

一 登山 則日退山

西田源藏

一同 羊羹式棹 献之  
御酒壺樽

松田庄藏

右者 松田新八郎△献之

二日晴

一 灌頂御開壇

一 仙臺御屋敷へ御使僧  
尤御入料請取

養傳房  
供 関助

一 登山

智山見龍房弟子  
真龍房

一同 小芋 牛房壺把 菜壺括

中西外衛

一同 松茸壺臺

丸屋喜十郎

一同

智山 瑞山房

一登山 頭芋三把

京都 吉兵衛

三日晴

一登山 時節御機嫌相伺

淀等 嚴房

乍序、勝寿院△ 御伺被申之也

一淀木下小兵衛方△使来ル

右者去ル 丑ノ年九月流水之節、當山出生竹壺駄可被遺旨被仰遺、依之来春居宅普請仕候之旨  
為知来也 返答ニ十日迄之内ニ 相切可遣之由役者△申入候也

一登山

吉田祐藏

四日雨天

一御灌頂御開壇之御祝義として使来

長芋式括

祝園 神宮寺

松井村 中性院

一とん田使

山下 元助

一 登山 砂糖 志箱  
御初穂 志封

尊天<sup>江</sup> 御酒料銀壹兩被備之

一 登山

五日晴天

一 結縁灌頂

一 登山 則日退山

一 參詣 則日退山

一同 割こんふ壺袋 則日退

一同 牛房式把 則日退山

一 御灌頂御開壇<sup>壇</sup>之御祝賀として八幡豊藏坊

使僧 こん布五拾本 三本入志箱自分  
御賀被申上之

杉本内匠殿

国領帶刀殿

大坂栄井屋利右衛門

鴻池屋

長左衛門

紙屋 栄性尼

外二 同道女中式人下

下部 壺人

薄屋 甚右衛門

丸屋 おげん

おゆそ

衣棚

おひさ

おちく

下部 壺人

義雲房

一參詣 せん香壺把

香料 壺封

一同 (五所柿壺籠  
白肥糖壺包)

一同 則日退山

一同 羊羹壺棹

一京都へ御使

一さん詣

多用ニ付差留メ宿也

六日晴

一昼飯、於客殿、各相伴

一退山

豊藏坊内 鳳 瑞房

同 山本喜内

紙屋新 助

桜井恕軒老

家内、女中、式人  
下男

舛屋五郎兵衛内

みよ  
供壺人

下部七助

安満村藤介

泰雄房

中性院

瑞山房

長栄房

七日晴

一出京

一退山

一神照院へ御出

為御礼金五百疋美濃紙拾帖 即知房へ木綿壺疋

一出京

宗門帳相納、且菱屋茂兵衛拝借金之儀相訴置候事

八日晴

一自分用事ニ付祝園へ参ル

八百屋

庄兵衛

杉本内匠殿

丸屋喜十郎

持宝院

見龍房

真龍房

丸屋勇藏

松田庄藏

奉供  
東岳  
新五右

明厳房

六定介

音潮房

一豊藏坊へ御使僧

同人

灌頂御祝義之御返礼、奉書半切三百枚

一塔坊へ同断

同人

金貳百疋同断

一安満村庄屋与八郎登山、拝借銀之儀来月十五日迄日延相願候三付、右之趣御免被下候事

一京都御使

清介

一帰山

定助

九日晴

一御礼登山

中西豊後殿

一京都へ御使

関助

一八幡へ参向

大雲房

十日晴

一登山

紙屋庄左衛門

十一日

一 帰山

音潮房

一同

持宝院

一同

明厳房

一 退山

庄左衛門

一 登山

杉本内匠殿

十二日晴

一 湊頂入檀（壇）為御礼登山

長栄房

保命酒壹德利献上、即日退山

十三日晴

十四日晴

一 伏見へ下向

持宝院

一 登山

西田源藏妻  
仁兵衛  
お沢

十五日晴

一御室御所へ御參

供奉

松田庄曹

御駕清介三人

一出京

後藤彈治

一御團拵

一參詣

西田源藏

十六日晴

十七日晴

一上京

遍照院

一登山

饅頭三十進献

伏見

朝日奈又助

同伴

齊藤沢右衛門

十八日晴

一如例 禁庭献上

使

遍照院

御宝札

枅一籠

長八



長橋殿へ

御札

枅一籠

右京大夫とのへ

国分たはこ一斤餘

御翠簾拝領之儀願出候事

一帰山

持宝院

十九日晴

一帰山

遍照院

一京都へ御使

後藤弾治  
仁兵衛

一登山

徳王寺

一登山

安養院弟子  
覚栄房

時節為御尋、紅柿一籠献上

廿日晴

一御帰山<sup>ニ付</sup> 御迎兩人差登<sup>ス</sup>

廿一日晴

一御帰山

<sup>奉供</sup>  
松田勝藏

廿二日晴

一山主 横山神照院へ御出

<sup>奉供</sup>  
東岳

一參詣

文蜂子<sup>(カ)</sup>郷兵衛

御宮<sup>江</sup> 胡桃一<sup>(袋)</sup>帋献供

一南都藤村佐渡<sup>ル</sup>使来、例年墨製伺候 饅頭三十指上候、近年墨製殊外悪敷候条、先年<sup>者</sup>  
御傳有之候

製法書吟味之上可申付<sup>旨</sup>、遍照院<sup>ル</sup>返答

(校註…日付「廿三日」記入落ちか)

一帋屋庄左衛門方<sup>ル</sup>飛脚来

右<sup>者</sup> 西御役所公事方真野八郎兵衛殿<sup>ル</sup>書状来、兩三日中 御奉行所へ役者可參<sup>旨</sup>申達

一淀 宇治 伏見<sup>江</sup> 當月分御札使

下人 仙助

一村上勘兵衛方ハ手代来 宛誓傳百部摺願也  
御免之上即日ハ摺初

廿四日曇

一西御役所へ參上

遍昭院 供一人

即日帰山、一条上田沢田女川端武兵衛出入之義ニ付當山江沢田女ハ相願候ニ付、本山  
ハも先日右願速ニ御裁許可成下旨望願致被遣候處、書付止メ置、今日内ニ被相戻  
候、委細行夏留ニ在リ

一登山

中西外衛

廿五日晴

一仙臺御家来 古山主水上京ニ付、為御見舞使僧

与楽院 下人 清助

廿六日、齊藤六郎大夫京着

一丸屋半兵衛ハ使来、右者御室杉本内匠殿ハ要書到来、上田沢田一件也

一右沢田女用ニ付、御室江廻リ上京

遍昭院 下人一人

廿六日晴

一上京

持寶院

一村上勘兵衛手代 寢誓傳摺り終り 退山

一仙臺古山主水、就京着、為御見舞使者

帟布ニ反進上

一帰山

佐藤伴太夫

与樂院

遍照院

一山主 横山神照院へ御出供 東岳

廿七日快晴

一御室江 長持挾箱塩味噌等為持下人四人指出

右者 来廿日△山主真乘院ニおゐて

西院御傳授、暫住山被食候ニ付、右二付カ 自性院殿御旅亭ニ御借用有之候也

廿八日晴

一御前 仁和寺へ御出

御供音 潮 朝房

此日古山主水齊藤六郎太夫等在京ニ付  
為御尋問京都へ御回り御應對有之

松田正曹

晦日ニ 御室へ御引移

清介

御挾箱一荷

仙介

一 退山

徳王寺

廿九日晴

一 登山<sup>即日退山</sup>

松井 中性院

灌頂ノ御礼

一 登山

肥前 大雲房

一 栗栖野へ参

後藤弾治

晦日晴

一 登山 拝借金願のため参上

西田源藏

一 帰山

後藤弾治

一 帰山

音朝房<sup>仙介</sup>

一 三宅平馬義多田へ入湯仕度由伊兵衛殿へ願来ニ付相談之上即遣ス

十月朔日晴

一 帰山<sup>御幸</sup>

七介

一 退山

西田源藏

二日晴

一御室へ御無人ニ付見龍房參上

石介

即日帰山、東岳房參 七介

一退山 八幡山參、近日高野山へ入衆之積也

大雲房

三日晴

一御室へ帰山

七介

四日晴

一御機嫌伺登山

開田  
三宅伊兵衛

五日雨

一登山

中西豊後殿

六日午へ晴天

一參詣

中飯酒差出

七日晴

一御室御借院へ御機嫌伺参上

捨重物持参

定観房

七介

八日晴

一帰山

定観房

九日雨

十日晴

一登山

中西豊後殿

十一日晴

大坂

奈良や

平兵衛

油や

清右衛門

河内や

仁三郎  
とも一人

一奥院へ参ル

高取助内

十二日晴

一登山

鴻池屋

長左衛門  
文七

十三日晴

一登山

中西外衛殿

一拝借銀日延為御願登山

安満村年寄  
兩人

十四日晴

一登山

泰雄房

一御室へ御使

関助

一楠葉村五兵衛方△竹之為御礼菓子二袋、神昭院△到来

十五日晴

一御帰山

御供

東岳房

松田将曹



十六日晴

清介

一京都へ御使

七助

十七日晴

一登山

神照院

興松寺

大和屋

善兵衛

一同

安満村年寄共  
兩人

右八拝借銀四貫四百目之内貳貫目持參返上、残銀者日延願帰

十八日雨

一登山

神照院

即知房

十九日晴

一上京

後藤弾治

廿日晴

一御室御里坊へ御使

七介

廿一日晴

一御室へ御出勤

御供 東岳房

松田将曹

清介

一東岳礼拝行結願

一御屋敷へ御札使

関助

一帰山

後藤弾治

廿二日晴

一登山

中西豊後殿

廿三日晴

一同

同 外衛殿

廿四日晴

一 御屋敷へ御使

七介

廿五日晴

一 登山

紙屋新助

一 伏見西田源藏へ使来

廿六日晴

一 登山

中西豊後殿

廿七日晴

一 登山

興松寺

紙屋新助

一 渡辺繁右衛門方へ使来、忠政三回忌三付、饅頭三十、めんちん(巾)三把被相備候事

廿八日晴

一 登山

神宮寺

廿九日晴

一神宮寺、御室へ參上

霜月朔日晴

一中西豊後殿へ使來、蕎麦粉三舁進呈之也

二日晴

一御入料為請取上京

明敝房  
関介

一登山

神宮寺

三日晴

一帰山

三宅平馬

四日晴

一御室へ御使

吉兵衛

五日晴

一 智山へ後身之義ニ付參ル

観典房

六日晴

一 帰山

観典房

七日晴

□ 出京

定観房

一 西田源藏ゑ使さん上、大根二わ献供

八日雨

一 僕一人京へ差出ス

石介

□ 登山

宮田七郎兵衛  
とも一人

小豆三升  
献呈

多葉粉九把

一 伊勢十文字大夫ゑ 御祓并 青海苔新暦いつもの通為持越、御初穂銀壹両返書遣ス

智山幻ヶ加道

一 登山

等空房

一 帰山

定観房  
石介

九日晴

一御帰山為御知ノため帰山

松田将曹

十日晴

一御室御旅宿へ使遣ス

越前  
七介

一登山

越前  
覚城房

一御團拵

一浴油開白

十二月分御祈祷、定観代修、承仕見龍相勤

一退山

紀州  
等空房

十一日晴

一京都へ御使

鹿嶋ノ  
吉介

一登山

鹿嶋ノ  
卓隆房

十二日晴

一登山

中西豊後殿

一退山

氷室へ□<sup>分</sup>

覚城房

一安満村御借付銀返上之分未納仕候<sup>付</sup>二付、當日△廿石上納

一登山

中田式部殿

来客<sup>二</sup>付座敷拝見被相願候、則明厳案内拝見□

十三日晴

一御帰山

御供東岳

一登山

将曹  
丸屋五兵衛  
清介

一勸修寺宮様△時節為御見舞御使、湯波沓箱御到来

十四日晴

一上京

養傳房

一登山

覚城房

一上京

圓空師

一登山

伊師  
中倉七郎大夫  
使

例年之通御祓曆等御到来

御初穂銀子壹両被遣之候也

十五日晴

一自分用上京

後藤彈治

十六日晴

一參詣

鴻池屋  
長左衛門

一登山

神照院

一同

中西豊後殿

一同

八幡山  
鳳瑞房

泰雄房

右兩人花水供秘次第御<sup>傳</sup>□授之儀兼被相願置候<sup>三</sup>付、此日登山、則於客殿御傳授有之也  
鳳瑞事良嚴卜改名也、煎茶二袋進献之也

一退山

覚城房

十七日晴



一 帰山

養   房 傳

後藤丹治

一 栗栖野百性共御藏附 ニ 付兩人登山

一 神照院へ御出

伊弥     (兵衛)  
御供 (岳房)  
東  

十八日晴

一 御守札出使

吉平

一 登山

尊圓 寺村  
池之坊

十九日晴

一 退山

養傳房

廿日晴

一 登山

安満 村  
与八郎

御拝借銀皆納仕候 ニ 付證文等

吉兵衛

返遣 ス 也

一 八幡豐藏坊へ使、先達 而 良嚴房登山之砌銀子拝借之儀被願帰候 ニ 付、為右断   書状遣 ス

一 登山

養傳 □<sup>②</sup>

廿一日 朝雨天

一 仙臺家寒中御見舞之御状差出ニ付、京都御屋敷へ參ル

興松寺  
關介

一 齊藤へも寒氣御見舞御口上有之也

砂糖漬一曲有合被遣之也

一 正親町様へも御使僧

以上

一 登山

中西外衛殿

一 退山

養傳房

廿二日 晴

一 正親町様齊藤六郎太夫へ御使僧

興松寺  
關介

廿三日 晴

一 帰山

興松寺

廿四日晴

一登山

安養院

弟子

御對顔後中飯出之

一登山

伏見

津国屋佐兵衛

水菜二把献上、金子式兩拝借罷帰ル

廿五日晴

正親町様へ御講断状遣ス 鍋嶋御屋敷へ寒中御伺状差出ス

一三輪市十郎殿へ御使

吉平

先達<sup>而</sup>花生竹所望之書状到来ニ付、右花生竹壺本為持遣ス

一安養院<sup>△</sup>使僧、昨日之御礼<sup>并</sup>来ル 廿八日御召請之趣、猶又神照院御同伴被<sup>成</sup>候様被申入候事

一九ツ半時地振ス

一暮六過<sup>キ</sup> 降雨雷鳴ス

廿六日晴

廿七日晴

一出京仙臺御婚禮日取相定候旨為知来

与楽院別ニ御用有之

未明△上京、石介召連  
即日石介返入

一御登山

廿八日晴

一御前、神照院御同伴ニ而安養院へ御出

智山御印可ニ付三人共上京

與樂院

興松寺

觀典房

神照院  
即知房

御供見龍房

東岳房

松田庄藏

三宅平馬  
清助

興松寺

一津嶋屋越後△寒中伺使差越ス、蒸菓子一重献呈

一帰山  
京都△

一音潮房大坂へ相下ス、圓空師内用也

廿九日晴

一昨日御出之御礼ニ登山、安養院和尚

(兼)  
密柑一籠呈進

一京都丸やゝ 御室内匠殿ゝの状為持越ス  
一帰山

與樂院  
観典房

晦日晴、八ツ過ゝ雨

一御前 御室へ御出、夫ゝ御出京  
京都へ石介一人御荷物為持差出ス

御供  
松田庄藏  
元介  
石介  
忠介

一登山

薩摩屋敷利銀受取持參

養傳房  
御駕者二人

十二月朔日半晴

一<sup>隣家</sup>出火見廻被申入候挨拶、寒中尋旁登山

正田大學殿

一京都ゝ御駕者二人帰山

一登山

胡蘿富<sup>(御)</sup> 天王寺カフラ<sup>(無)</sup>

鳥養  
お道との  
伏見  
左兵衛

献呈

## 二日晴

一仙臺御屋敷御入料請取使

興松寺

一大門寺△使僧

惠海房

時節為御窺、蕎麦粉二帋献上之

一八幡塔坊△使

寒中御窺、且歳末為御祝義牛蒡一把進献之

一圓空房、此度御室御所御院家兼帶被相願候ニ付出勤

駕者兩人  
下部老入

一帰山

音潮房

## 三日雪

一退山

鳥かい村  
お道

一同

恵海房

一帰山  
御室△

圓空房

御院室廢レ興首尾能相済、勝功德院ト云院室亨御預り被申候也

興松寺

一富田△醬油取使

善介

一明年御礼當ニ付、為御暇乞登山

過書座年寄  
齊藤小八郎

四日晴

一 御帰山

一 登山 一宿

御供  
松田勝藏  
御駕兩人  
中性院

五日晴

一 淀過書座下役人谷村茂左衛門登山

来正月分御初穂銀壹枚年寄中利銀三百廿四匁持參、且又去年九月分御初穂延引之銀壹枚  
相納、仍<sup>而</sup>先達<sup>而</sup>參有之候下役人<sup>ハ</sup>書狀差返シ遣ス畢

一 登山

山下 山田七左衛門

右ハ去月晦日夜、七左衛門宅出火<sup>ニ</sup>付、見廻申入候挨拶也

一 登山

一 登山

神照院  
即知房  
覚城房

六日晴

一 栗栖野村伊兵衛百性一人參上、右ハ年貢願<sup>ニ</sup>付

丸ヤ五兵衛<sup>ハ</sup>手紙相添遣ス、五兵衛方<sup>ニ</sup>而申付候様彈治<sup>ハ</sup>返事遣

一 富田清酒取使

關介

光徳寺へ寄ス

一 紙や新介登山、高槻行也、翌日立寄一宿、八日朝退山

一 橋本太左衛門登山 天尊供物拝受願来<sub>ル</sub>

一 八幡山松本坊へ參

觀典房

七日半晴

一 神昭院植尾山御登山ニ付、見龍房御雇ニ付早旦<sub>ハ</sub>參<sub>ル</sub>

一 淀年寄齊藤小八郎へ御餞別被遣使

吉兵衛

道中守護 国分多葉粉一斤半被遣

一 退山

覺城房

下り金拂底ニ付被相願、金子一両拝借被中候也

一 智山以恩法印<sub>ハ</sub>使僧到来、出流密門房就病氣 天尊護符頂戴願也

使僧 純淨房

八日晴

一 大坂住友 鮒や 薩易屋敷 吹田や 天満屋敷等へ寒中見廻牛房御贈進使差下ス

山下元介



一 中西豊後殿へ借進有之候銀子二ノ五百目、山下大夫山田弥三右衛門持參返納、證文三枚差返ス  
一 登山 やうかん二棹献呈

仙臺  
長春房  
長春房

九日晴

一 退山

長春房  
長春房

一 京都紙やゝ飛脚到来、大坂吹田やゝ薩嘉屋敷銀子之儀被申越候書状相届来

十日晴

一 參詣

鴻池や  
長左衛門

一 帰山

元介

天満ゝ胡蘿富被差上

一 智山へ陀ラニ出仕

定観房

観典房

明厳房

一 勧門主へ寒中御伺使僧、観典房被相勤

牛房一籠 御書

十一日晴

一京都へ使、御内佛殿机二脚差登由也

十二日晴

一退山

養傳房

十三日晴

一御室△御使到来、薩<sup>ササ</sup>一乘院任官<sup>ニ</sup>付、借用物頼来

一<sup>智山△</sup>帰山

定観房  
観典房  
明巖房

一伏見松田新藏△寒中伺使被差上、寒天一折献呈

十四日晴

一<sup>槇尾△</sup>帰山

見龍房

十五日晴

一神照院御登山、即知房侍従

十六日晴

一安養院へ御使僧

音潮房

仁保嶋海苔

帟屋饅頭十五

十七日晴

一登山 如例芋一臺献上

池坊

光観房

一同

塔之坊

右ハ瀧本坊中ノ坊<sub>△</sub>金子拝借之儀被相頼候ニ付、内々相尋被来候也

一富田使

治兵衛

十八日晴

一御札出、明厳登京

仁兵衛  
長三郎

年晩諸方牛蒡御贈進之御使相勤<sub>ル</sub>

一三宅伊兵衛<sub>△</sub>使来、為歳晩御か不、牛蒡大根芋進献之也

元助

一登山 寒中御窺

一八幡塔坊へ使

昨日内々相頼被来断申遣ス

十九日晴

一退山

一神照院へ御出、為歳末御祝義、小奉書二帖被遣之候事

一登山

廿日小雨

一登山

一同 金子百疋  
蕎麦粉二俵

廿一日晴

一京使

仙家来辰年御祈祷被仰付候御請、歳暮御祝義状差出

木下  
山鹿太郎右衛門

池坊

中西豊後殿

安養院

朝日奈又助

吉兵衛

廿二日晴

一御室へ歳晚牛蒡之御使

音潮關介

一登山

養傳房

一豊後殿へ炭壺俵、内室へ銀子貳両、お常へ延紙二束被遣之候事

一山寺大喜多道仙へ銀四両被遣候事

一三宅伊兵衛へ半紙三束被遣候事

一豊後殿へ牛蒡二把進献之也

一目薬屋弥兵衛へ半紙二束被下之也

廿三日晴

一登山

真上  
光徳寺

密柑(蜜)一籠、椿花御呈進

廿四日雨

一明日京都出入方拂ニ付出京

與楽院

彈治義ハ伏見へ相廻り拂仕舞京都へ罷出

後藤彈治

一智山以恩法印へ先回護付頂戴之御礼として使差被越金百匹  
美濃柿一函呈進

一 神足油や弥兵衛（少）の牛房一把歳暮御祝義ニ献呈  
 一 六条善五郎歳暮御祝義ニ参上、ふ一つ（魅）と献上  
 一 山下目薬や弥兵衛の栗五舛献上

廿五日晴

一 御登山

一 歳晚御祝儀ニ登山

神照院

即知房

中西豊後殿

廿六日晴

一 八幡山豊藏坊の歳晚御使僧到来

牛房一折御増進

義呷房

とも一人

松本坊泰雄房の牛房かふ茸被差上

一 栗栖野百性とも二人歳暮御祝儀ニ参上

一 山下富田や藤兵衛の歳晚御祝詞ニ豆腐十丁献呈

一 此日未明の山下元介京都へ差出ス

禁裏歳暮献上也

牛房一箱 御春度（カ） 御撫物返上取かへ

御簾拝領年限故、先達<sup>而</sup>相願候処、今日不被相渡、廿八日拝領使僧差出ル

長橋へ牛房一籠 右京大夫へ延紙二束

一帰山

与楽院

彈 治

紙ヤ庄左衛門△例年之通歳暮御祝儀 金百匹 御鏡餅 御酒一樽三舛 御足帋二足 栄性尼△  
丸や△ 御手拭二献上

香具ヤ九郎兵衛△ 酒札三舛 屠蘇二帋

夷ヤ善兵衛△ 三方一膳

近江ヤ善兵衛△ 菓子一帋

春日ヤ△ 砂糖一曲

津嶋ヤ△(磯清水一壺  
名酒也)

紙庄へ御祝儀被下物 銀壹枚 金百疋 飯料 栄性尼へ 銀二両

宗伯へ銀壹両、外ニ謝礼壹両

武州幸順へ 銀二両 丸ヤへ飯料銀二両

桜井永藏へ金三百匹<sup>御室御住山の節御見廻物の  
御挨拶、薬礼とも</sup>

井上縫殿へ金三百匹

廿七日晴

一御餅搗

前日中西氏父子御招被遊候ニ付  
役人中ハ手紙ニ而申遣候事

一退山

真上  
光徳寺

一松田新八郎ハ薯蕷一籠御酒一樽差上、使札參ル

一神照院ハ御出、御供 東岳

一上京

明日御所御簾拜受御使僧、萱場衛守殿ハ  
御見廻使兼而也、今日ハ私用

觀典房

廿八日晴

一神照院ハ先回地藏院流御傳受の御礼使

明厳房

仙臺紙布一端 金百匹

御弟子中ハ銀二両、歳末之御祝儀ニ被遣候事

一今日 禁裏御簾拜受、萱場衛守殿ハ在京御見廻御使僧觀典房被勤候ニ付、供のため

今日清介差出ス 衛守殿ハ一森二斤一箱、密柑一籠被遣候事 衛守殿十二月九日着也

一大工平治ハ歳暮御祝儀ニ牛房献上 八百ヤ嘉兵衛ハ密柑一籠献上候事

一登山

松田新八郎

昨日參上可被致候所、御用急ニ出来、仍今日登山也、拝借銀返上之心ニ而銀百目呈上



廿九日晴

一富田へ御酒取使

門前仁兵衛

一豊藏坊へ御使僧

見龍  
七介

歳晚御挨拶、且江府參勤之御餞別(シヤ)ト、国分烟草一斤餘、仁保嶋海苔五十枚被御進之候  
一聞法寺へ藥礼銀壹枚被遣之也、百六拾貼代

一伏見丸屋五兵衛方へ使来、歳暮為御祝儀小いも五舛献上之、例年ハ餅一重致献上候得共、  
當年ハ故障之儀有之、仍而断申越

一帰山

観典房

此日又々御簾之儀ニ付長橋殿御玄關へ被參候處、御簾御餘慶無御座由ニ而来春申出シ候様  
差函有之也

晦日晴

(無記入)

(宝曆九年日譜終)